

頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム  
アジア・アフリカの持続型生存基盤研究のための  
グローバル研究プラットフォーム構築

若手研究者派遣  
2013年度募集要項

2013年4月22日  
頭脳循環プログラム事務局

## 1. 概要

京都大学東南アジア研究所では、日本学術振興会 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム『アジア・アフリカの持続型生存基盤研究のためのグローバル研究プラットフォーム構築』を実施しています。本プロジェクトの目的は、(1) 欧米中心のグローバルな知識の再生産体制の是正をめざし、「地域」の複眼的な理解を増進する人材を育成すること、および (2) 欧米やアジア・アフリカ諸国で展開されている先進的な研究と本研究科が推進してきた地域研究との融合をはかることの 2 点です。このため、海外パートナー機関の協力のもとに、東南アジア研究所、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、あるいはアフリカ地域研究資料センターに所属する若手研究者を各人 2 ヶ所以上の海外パートナー機関に計 12 ヶ月間程度派遣します。2013 年度は、派遣者の調査フィールドの研究機関および欧米の英語圏の研究機関で研究活動を行う若手研究者若干名 (2~3 名) を募集します。

※本プログラムの詳細は、以下のホームページをご参照ください。

頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム

「アジア・アフリカの持続型生存基盤研究のためのグローバル研究プラットフォーム構築」

<http://brain.cseas.kyoto-u.ac.jp/>

## 2. 応募資格

以下の 3 点をすべて満たす者 (応募資格があるかどうか不明の場合は、頭脳循環プログラム事務局へ問い合わせること)

- (1) 東南アジア研究所、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、あるいはアフリカ地域研究資料センターに在籍する教授、准教授、助教、研究員等 (時間雇用の研究員、日本学術振興会の特別研究員 PD を含む)、研修員、博士予備論文を提出後の大学院生 (日本学術振興会の特別研究員 DC を含む)、または申請時 3 年以内に東南アジア研究所、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、ないしアフリカ地域研究資料センターに在籍したことがある者で、派遣開始時に東南アジア研究所、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、あるいはアフリカ地域研究資料センターに在籍することが確実な者。
- (2) 博士号取得者、もしくはそれと同等の学識を有する者。  
\* 博士号未取得者は、主指導教員が博士号取得者と同等の学識を有すると認めた者。
- (3) 派遣開始年度の 4 月 1 日時点において満 45 歳以下の者。

## 3. 募集人数

若干名 (2~3 名)

## 4. 派遣期間

原則として、2013年8月上旬～2015年2月15日までの期間のうちの計12ヶ月間程度

## 5. 海外パートナー機関

以下の18機関の中から、調査地域の機関および欧米の機関をそれぞれ1機関以上（計2機関以上）を選ぶこと。

- (1) 派遣者の調査フィールドの研究機関
- (2) マレーシア：サラワク大学東アジア研究所（IEAS, UNIMAS）  
<http://www.ieas.unimas.my/>
- (3) インドネシア：ボゴール農科大学農学部  
<http://ipb.ac.id/education/undergraduate/faculty-of-agriculture>
- (4) インド：デリー大学社会学部（DSE）  
<http://econdse.org/>
- (5) トルコ：アンカラ大学神学部  
<http://arsiv.ankara.edu.tr/english/yazi.php?yad=28>
- (6) エチオピア：アジスアベバ大学社会科学部  
<http://www.aau.edu.et/index.php/humanities-education-overview>  
<http://www.aau.edu.et/ies/>
- (7) カメルーン：ヤウンデ第1大学教養・文学・社会科学部  
[http://www.uy1.uninet.cm/index.php?option=com\\_content&view=category&layout=blog&id=56&Itemid=75](http://www.uy1.uninet.cm/index.php?option=com_content&view=category&layout=blog&id=56&Itemid=75)
- (8) 米国：コーネル大学東南アジアプログラム（SEAP）  
<http://seap.einaudi.cornell.edu/>
- (9) 英国：ロンドン大学政治経済学院（LSE）  
<http://www2.lse.ac.uk/home.aspx>
- (10) オランダ：ライデン大学アフリカ研究センター（ASC）  
<http://www.ascleiden.nl/>
- (11) イギリス：マークフィールド高等教育研究所イスラミック・ファウンデーション  
<http://www.islamic-foundation.org.uk/User/Home.aspx>
- (12) パキスタン：ジャマーアテ・イスラーミー政党本部附属図書館  
<http://jamaat.org/beta/site/index/>
- (13) インド：ジャワハラール・ネルー大学  
<http://www.jnu.ac.in/>
- (14) インドネシア：リアウ大学  
<http://www.unri.ac.id/>
- (15) インドネシア：タンジュンプラ大学  
<http://www.untan.ac.id/>

(16) アメリカ：ワシントン州立大学

<http://www.wsu.edu/>

(17) 英国：ロンドン大学東洋アフリカ研究所 (SOAS)

<http://www.soas.ac.uk/>

(18) 上記以外で共同研究が可能な研究機関

\*応募時に受入研究者を確保できており、本プロジェクトで採択された場合は受入可能な研究機関に限る。事前に頭脳循環プロジェクト事務局（以下、事務局）と要相談。

## 6. 支援する経費

(1) 渡航先への航空運賃（実費）、査証代（実費）、派遣先研究機関での受入費（実費、ただし 100 万円を上限とする）

\*本プロジェクトでの派遣は、海外の研究機関に客員研究員等として滞在し、共同研究を行うためのものです。学位や単位の取得を目的とした留学、そのための入学金や授業料は原則として支援の対象になりません。

(2) 滞在費（予算状況に応じて変更する可能性があります）

① 派遣者の調査フィールドの研究機関（京都大学旅費規程乙地域の場合）：教授、准教授、助教は 6,700 円/日、研究員、研修員、大学院生は 5,000 円/日で日割り計算

② 派遣者の調査フィールドの研究機関（京都大学旅費規程甲地域の場合）：教授、准教授、助教は 8,400 円/日、研究員、研修員、大学院生は 6,700 円/日で日割り計算

③ アジア・アフリカの研究機関（5. の(2)～(7)、(12)～(15)）：教授、准教授、助教は 6,700 円/日、研究員、研修員、大学院生は 5,000 円/日で日割り計算

④ 欧米の英語圏の研究機関（5. の(8)～(11)、(16)～(17)）：教授、准教授、助教は 8,400 円/日、研究員、研修員、大学院生は 6,700 円/日で日割り計算

(3) 派遣期間中に発表を予定している国際会議参加費用（食費等が含まれる場合は支払不可。事前に事務局と要相談）

## 7. 申請方法

頭脳循環プログラム「アジア・アフリカの持続型生存基盤研究のためのグローバル研究プラットフォーム構築」若手研究者派遣 応募申請書（日本語申請書、英語申請書のいずれか）に必要事項を記入の上、2013年5月13日（月）から5月31日（金）午前10時までに事務局宛てにメールにて提出すること。

提出先メールアドレス：<[brain\\_office@cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:brain_office@cseas.kyoto-u.ac.jp)>

## 8. 選考基準

選考基準は以下の6点である。

(1) アジア・アフリカ地域研究において、すでに十分な実績をあげているか。

- (2) 海外派遣により期待される理論的展開に関して明確な見通しがあるか。
- (3) 受入機関や受入研究者は、渡航計画の目的や内容からみて適切か。
- (4) 国際的なディベートを活発に行う言語力を身につけているか。
- (5) 英語圏における査読付き学術雑誌に論文を掲載する現実的可能性があるか。
- (6) アジア・アフリカ地域研究を担う国際的な研究者となることが期待されるか。

\* 第二次選考時までに直近の語学（英語）検定試験結果を提出することが望ましいが、それまでに語学検定試験結果の提出ができない者も応募可とする。ただし、採用された場合には、派遣時までに語学検定試験結果の提出をすることが求められる。

## 9. 選考方法（状況により、日程は変更される可能性あり）

第一次選考 書類審査： 2013年5月31日（金）午前10時 書類提出締め切り

2013年6月7日（金）メールにて第一次選考結果を通知

第二次選考 面接選考： 2013年6月13日（木）頃

（※面接の詳細については、後日、第一次選考の通過者へ別途お知らせいたします）

## 10. 帰国後の成果提出

帰国後に下記の成果の提出が求められる。

- (1) 報告書（日本語および英語。各フォーマットあり）
- (2) 写真／ビデオなど
- (3) 本プログラムが主催する国際シンポジウムでの発信

\* (1)～(2)の提出は帰国後1ヶ月以内、提出先は事務局です。

## 11. 注意事項

- (1) 応募者は自身の上司（教授、准教授、助教、研究員、研修員）、指導教員（大学院生およびその他の博士号未取得者）とよく相談して、研究計画、派遣期間を決定すること。
- (2) 各受入機関の詳細な情報を考慮した上で、適切な研究計画、派遣期間を決定すること。
- (3) 2013年度より海外での研究活動を開始できる者を若干名採用する。
- (4) 他経費の助成による海外研修を実施中に、本プロジェクトによる海外研修を連続して行うことは可能だが、その場合、以下(5)のような制限があるので留意すること。また事前に上司・指導教員・事務局とよく相談をすること。
- (5) 本プロジェクトと同時に、他経費の助成による海外派遣を希望する者も本プロジェクトへの応募資格はあるが、他経費の助成による派遣期間と本プロジェクトの派遣期間を明確に区分して届出をすること。
- (6) 本プロジェクトによる支援を受けた後に、論文等を発表したり、学会発表等を行ったりする場合は、下記の例にならって但し書きを付記すること。

① 学会誌等

本プロジェクトを通じて得られた成果に基づいて作成された論文等を学会誌等に掲載する場合は、本プロジェクトによる研究であることを下記の例を参考に記載すること。

<例>

和文：本研究では、独立行政法人日本学術振興会 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム「アジア・アフリカの持続型生存基盤研究のためのグローバル研究プラットフォーム構築」による支援を得た。

英文：This work was supported by the JSPS Strategic Young Researcher Overseas Visits Program for Accelerating Brain Circulation, "Construction of a Global Platform for the Study of Sustainable Humansphere".

② 学会発表等

学会や講演会で研究成果を発表する際には、本プロジェクトとして交付された資金による成果であることに触れ、プロシーディングスなどにも上記①の例にならって記載すること。

●募集に関するお問い合わせ

頭脳循環プログラム事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 46

京都大学東南アジア研究所

担当：瀬戸、明渡（月～金 10:00-17:00）

E-mail : [brain\\_office@cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:brain_office@cseas.kyoto-u.ac.jp) Tel : 075-753-9192 Fax : 075-753-7389

URL: <http://brain.cseas.kyoto-u.ac.jp/>